



乳幼児教育・保育推進事業 通信 ～令和6年度 研究・研修専門部会～



令和6年12月3日（火）に、令和6年度 宇治市乳幼児教育・保育推進協議会 研究・研修専門部会を開催いたしました。
部会の様子をお知らせします。



主な内容

検討

来年度の研究・研修について



専門部会とは



「保幼小連携」「研究・研修」「発達・子育ての支援」の推進にあたり、現状の把握、課題抽出、対応策の検討、研究・研修の企画実施等について、乳幼児教育・保育の実務をよく知る職員の意見を反映できる仕組みとするために設置したもの。



○検討

来年度の研究・研修について



1. 研究について

(1) 施設類型ごとの主な取組状況や特色について

<民間保育所・こども園>

- 京都府レベルや全国レベルの協議会等に参画しており、その所属団体の研究発表会に向けて自薦や他薦で研究を実施
- 個人やグループで取り組んでおり、職員の保育時間終了後の 17 時半以降に実施

<私立幼稚園>

- ECEQ[®]等の規格に基づく研究等を実施
- 教育時間終了後は、預かり保育があるため、土曜日等に計画的に実施

<公立保育所>

- 市立保育所保育研究会を運営、年齢別部会や専門部会を年 3 回程度開催し、研究テーマに基づく研究を実施
- 比較的保育に支障のない時間帯を研究・研修時間に充てている。

<公立幼稚園>

- 府、山城地方、市の教育研究会の会員
- 園の研究テーマに基づく研究を実施
- 基本的には、水曜日の午後や 15 時半から 17 時までを研究・研修時間に充てている。

<公立小学校>

- 府、市の教育研究会の会員
- 学校の重点研究主題に基づく研究を実施
- 基本的には、15 時半以降を研究・研修時間に充てている。

(2) 取組状況を共有する中で見えてきた課題について

- 概ね、各施設類型で研究に取り組んでいることが分かったが、具体的な研究内容や成果について、施設類型を越えて共有できていない状況である。
- 各施設類型で、研究に取り組める時間が異なるため、各施設から個人を推薦し、一つの研究に取り組むのは難しいのではないかと。

(3) 解決策・今後の方向性の検討

- 実践発表であれば、比較的取り組みやすいと思われる。
- 全国的な課題を踏まえつつ、宇治市に特化したテーマが設定できると各保育者や教員にとっても関心が高まるのではないかと。
- 施設類型を越えた教育・保育に関する知見の共有は、あまり進んでないので、施設類型を越えて学び合うことが必要だと思われる。

2. 研修について

(1) 現状の課題

<就学前施設>

- 小学校教育や教育的な知見の蓄積を幼児教育においてどのように生かすか。
- 「遊びを通して」資質・能力を育む幼児教育について、小学校教員の理解を深める。
- 架け橋ブロックによって、架け橋プログラムの進捗に差が生じないようにする。
- 悉皆研修に参加できない、園(校)や保育者・教員へのフォロー

<小学校>

- 就学前施設での学びを生かせるようなスタートカリキュラムへの改善

(2) 解決策・今後の方向性

- 全ての小学校が、同日に午後の授業をカットし、就学前施設の参観を行うような「研修の日」の設定の検討
- 教務主任対象に、架け橋プログラムを踏まえた新しいスタートカリキュラムについての研修(小学校の「教務主任会」を利用)実施
- 中学校ブロックで行っている研修会や公開授業の活用
- 指定された1週間内に、自由に保育・授業参観ができるという取り組み方の検討(施設類型によって、体制の確保や子どもの緊張・保育者の準備等の理由から、1日に限定してもらった方がよいという意見もあり)
- 研修に参加できない保育者・教員へのオンデマンドの配信
- 公開保育の際、研究・研修専門部会員が通常の参加者枠以外で参加できるような配慮

3. まとめ

(1) 基本理念に根差した研究・研修

- | | | |
|-----------|---|---|
| 「ともに生きて」 | → | ○公開保育や公開授業の実施
○観たこと・感じたことの意見交流などが大切 |
| 「ともに育ち」 | → | ○横のつながり
○いろいろな子どもがいる中での支援・インクルーシブ教育の研究 |
| 「ともにつながる」 | → | ○就学前から小学校へ |

(2) 顔の見える関係づくり

「施設類型を越えた連携・交流」をスローガンに「**顔の見える関係づくり**」を進めているため、今後は、オンデマンド等も取り入れる方向ではありつつも、**対面型研修で関係をつくることを基本**とする。

(3) 実践の知を分かち合う

- 多様な施設があるため、まずは、互いの教育・保育実践を知ることにより、互いのこれまでの実践の知を分かち合う場となるようにする。
- 施設類型を越えて保育者・教員が子どもの姿を中心に据えて、語り合うことを大切にする。
- 参加者が研究や研修で学んだことを持ち帰って伝え、自園(校)の仲間とともに教育・保育を見直したり改善したりすることを通して、その園(校)の教育・保育の質が維持・向上されることをめざす。また、さらにその実践の知を、施設類型を越えた研究・研修の場に持ち寄り、学び合うことを往還的に行うことにより、全ての子どもの健やかな成長につながる市域全体の教育・保育のさらなる質の向上を図っていく。

(4) どの施設、どの保育者・教員も参加できる工夫

- 保幼小連携は、センターが仲介役や調整役を果たすことで、架け橋ブロックによる取り組みの差が生じないように配慮する。
- 必要に応じてオンデマンド配信等を利用できるようにする。

令和6年12月20日開催

令和6年度第3回宇治市乳幼児教育・保育推進協議会
資料P1～3「研究・研修専門部会報告書」より引用



(仮称) 宇治市乳幼児教育・保育支援センターの取組について

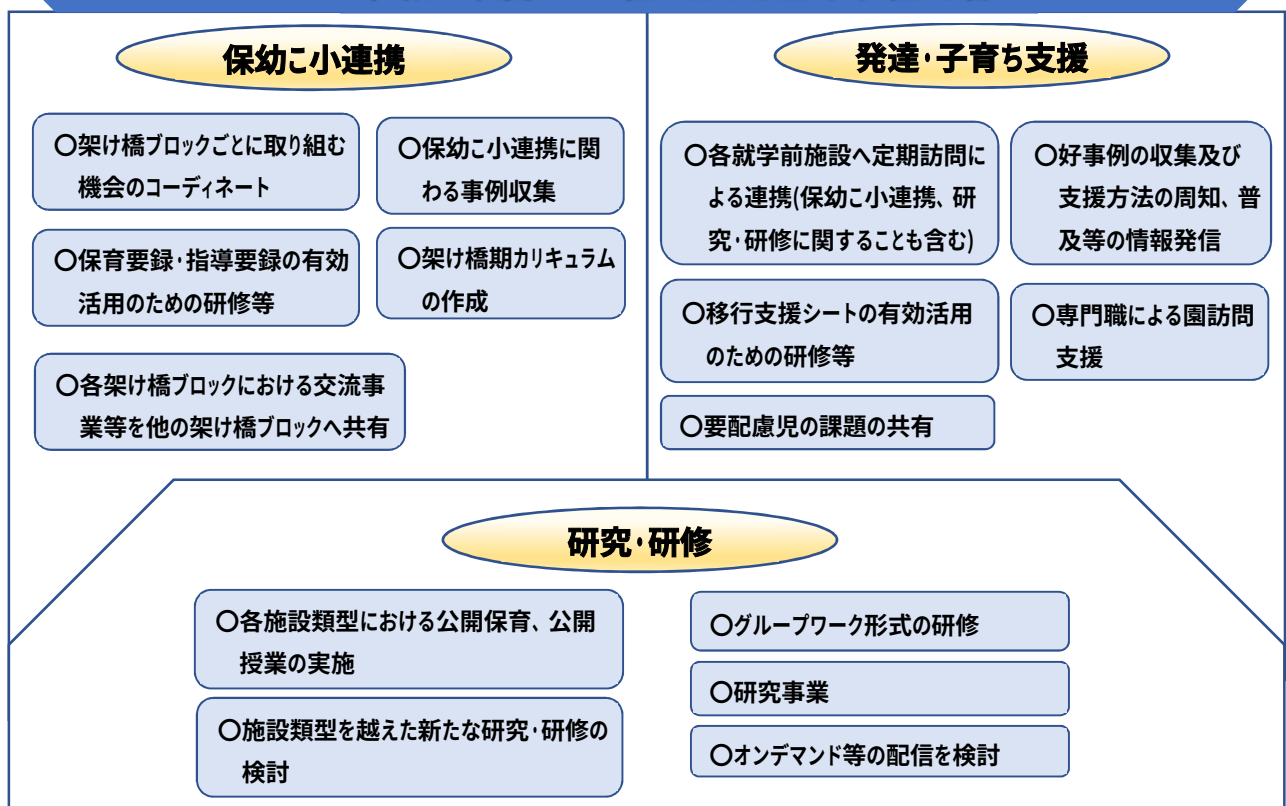
施設類型を越えて全市的に連携・協働し、各施設での取組を共有することにより、これまで以上に、保幼小連携の取組推進や人材育成を図り、もって教育・保育の質の向上に資することを目的として、以下のとおり基本理念を定め、令和7年4月に(仮称)宇治市乳幼児教育・保育支援センターを設置します。

基本理念

育もう 未来のつぼみ 咲かせよう それぞれの花
「ともに生きて ともに育ち ともにつながる」

○取組について

令和7年度3つの柱における主な取組内容



○体制イメージ

乳幼児教育・保育の推進

